

# 『漢字系統樹表 2800』改訂録

善如寺俊幸（言語教育研究所）  
gengokyoikukenyusho@gmail.com

## 【要約】

昨年（2018年）出版した『漢字系統樹表2800（新訂版2018）』において、旧『漢字系統樹表2800』がどのように改訂されたかをまとめて記す。その各箇所個々の理由は現在作成中の『漢字系統樹表2800解字』に述べているし、時間的な制約もあるので、ここでは省く。

## 0. はじめに

旧『漢字系統樹表2800』の新訂箇所と新訂事項、削除された漢字、新規加入漢字を各項に分けて記す。また『漢字系統樹表2800』は新訂版も含めて、赤、青、黒、灰色の四色刷りなので、文字の色はそのままに、また各色の字は赤字、青字、黒字、灰色字と称して述べる。『漢字系統樹表2800（新訂版2018）』では2桁続きの桁を1桁ずつに区切ったことによって、空白の桁が生じる心配がなくなり、より自由に妥当な漢字の選別ができた。そのことも新訂版を急いだ理由の一つである。また蛇足と思われる旧字も除いた。

## 1. 新訂箇所および新訂事項

以下、1)～41)の操作を行う。

- 1) 2字続きの広い桁はすべて区切って2桁に分ける。
- 2) 2行30列「土」の次に、36行18列「社」を移動。
- 3) その「社」の次に、2行17列の「圧」を移動。
- 4) 3行5列「埋」の次に、赤字の「<sup>ルイ・ライ</sup>𪛗」を挿入し、それに続けて2行43、44列の「罌」「罌」を移動。
- 5) 3行9列「𠂔」の次に、青字の「<sup>チャク</sup>𠂔」と青字の「<sup>イツ</sup>𠂔」を挿入。両字の桁は区切る。
- 6) 3行27列「益」を青字にして、次に黒字の「<sup>イツ</sup>溢」、下に訓読みのルビ「あふ（太字で）れる（細字で）」を挿入。
- 7) 5行13列「鉢」のルビを「ハチ・ハツ」に変更。
- 8) 6行42列「孤」の次に、黒字の「<sup>コ</sup>狐」、下に訓読みのルビ「きつね（太字で）」を挿入。
- 9) 7行4～6列「<sup>コ</sup>孛孛」を6行39列の「肺」の次に移動する。

- 10) 7行19列「誘」の次に、青字の「<sup>ソ</sup>蘇」を挿入し、それに続けて7行13列の「蘇」を移動。
- 11) 8行16列「類」を23行10列「頁」の次に移動。
- 12) 9行22列「塚」を56行48列「<sup>マ</sup>マ」の次に移動、9行22列には灰色字で「家」と「塚」を挿入。
- 13) 10行14列「采」の音読みを「ハン・バン」に訂正。
- 14) 10行28列「胃」の次に36行1列「肩」を移動。
- 15) 11行2列～5列「能態罷熊」を10行4列「瀘」の次に移動。
- 16) 11行9列「帥」を56行15列「吊」の次に移動。
- 17) 15行23列「<sup>けつ</sup>欠」の音読みを「<sup>けん・けつ</sup>欠」に訂正。
- 18) 15行38列「儿」の次に16行15列「児」を黒字にして移動。
- 19) 16行7列「劍」の次に黒字で「齧」追加
- 20) 18行46列「印」を黒字にして、18行40列「<sup>イ</sup>印」の次に移動。
- 21) 24行33列「循」の次に、黒字で、「<sup>ジュン</sup>楯」下に訓読みのルビ「たて（太字で）」、「<sup>トン</sup>遁」下に訓読みのルビ「のが（太字で）れる（細字で）」を挿入。
- 22) 25行20列「心」の次に、赤字の「<sup>シ</sup>心」、その次に「<sup>コ</sup>小」を挿入。
- 23) 25行45列「屍」の次に、赤字の「<sup>カイ</sup>乖」を挿入して、さらに34行25列「呂」と27列「侶」を続ける。
- 24) 26行2列「右」を黒字に変更して、39行9列「口」の次に移動。
- 25) 29行23列「対」の次に、灰色字の「封」を挿入。
- 26) 29行35列「府」を青字にして、37列「腐」の前に移動。
- 27) 32行5列「誌」の次に、青字の「<sup>スイ</sup>夬」を挿入し、その次に32行7列の「後」を移動。
- 28) 32行6列「夬」を青字に変更。
- 29) 32行24列「<sup>キ</sup>キ」を青字に変更。
- 30) 32行43列「（實）」の次に、23行13列の「寡」を移動。  
その「寡」に続いて、34行26列「宮」を青色にして移動し、その次に灰色の「宮」を挿入。
- 31) 34行24列「瓶」を灰色字にする。
- 32) 34行24列「瓶」の次に、赤字の「<sup>リン</sup>稟の上半部、上にルビをリン」と、その次に青字の「<sup>リン</sup>稟」と、  
黒字の「<sup>リン</sup>凜」を挿入し、34行28列「<sup>リン</sup>凜」を青字にする。
- 33) 36行41列「商」を39行13列「只」の次に移動。
- 34) 39行4列「西」の次の「茜」を消して「晒」を加入、その次に赤字で「<sup>ロ</sup>鹵」を加入する。
- 35) 39行30～32列「言信這」を40行46列「詰」の次に移動し、それに続けて40行50列～41行9列「音暗闇意億憶臆竟境鏡」を移動する。
- 36) 41行43列「蓋」を37行23列「盗」の次に移動。

- 37) 45行29列「感」を青字にして45行31列「憾」の前に移動。
- 38) 45行36列「聖」を23行48列「耳」の次へ移動。
- 39) 48行3列「弁」を赤字にして56行48列「→」の前に移動。
- 40) 52行29列「康」を青字にする。
- 41) 53行21, 22列「対(對)」を53行17列「業」の次に移動。

## 2. 削除された漢字

以下の40字を削除する。

1. 3行47列「瑠」
2. 11行7列「菅」
3. 13行1列「寥」
4. 14行23列「璃」
5. 16行16, 17列「(兒)」「睨」
6. 18行34列「(效)」
7. 22行29列「蕪」
8. 23行6列「(眞)」
9. 26行3列「佑」
10. 26行4列「祐」
11. 26行17列「妓」
12. 27行12列「嫂」
13. 28行20列「(肅)」
14. 34行32列「瘡」
15. 31行8列「趾」
16. 36行21列「崇」
17. 36行40列の「商のパーツ」
18. 37行1列「療」
19. 39行5列「茜」
20. 41行33列「葛」
21. 41行48列「(價)」
22. 42行13列「(會)」
23. 42行22列「稔」
24. 43行16列「婢」
25. 44行1列「俱」
26. 44行19列「(兩)」
27. 44行23列「扼」
28. 48行4列、5列、6列の「(辨)」「(辯)」「(瓣)」
29. 49行39, 40列「台(臺)」
30. 50行6列「(單)」

31. 52行40列「箕」
32. 55行5列「銜」
33. 56行15列「媾」
34. 58行5列「(寶)」
35. 59行24列「(萬)」
36. 60行22列「(亂)」

### 3. 新規加入漢字

以下 19 字を新規に加入する。(行列は『漢字系統樹表 2800 (新訂版 2018)』の数字)

1. 11行29列「朦」
2. 13行7列「謬」、33列「鑽」
3. 14行21列「舵」、37列「隴」、44列「仇」
4. 16行18列「齷」
5. 17行33列「鋏」
6. 18行33列「謗」
7. 19行23列「婉」
8. 34行33列「凌」
9. 36行6列「悶」
10. 40行18列「覲」
11. 43行25列「痺」
12. 52行6列「峻」
13. 56行27列「瞞」
14. 58行3列「誹」、32列「桂」、33列「鮭」

### 4. おわりに

『漢字系統樹表2800』に収める2815という字数は、確かに留学生教育や学校教育に要する字数をはるかに超える。そのため、各国の教育現場から字数を1500字ぐらいに減らして系統樹を編んでもらえないかという問い合わせが届いている。しかし、漢字という文字が系統的に成り立つことをわかりやすく示すには、どうしても2800ほどの字数が必要なことを説明して納得してもらっている。それで、各教育機関の各課程の必要に応じて、そこの教育に必要な漢字を2800字から表上で抽出してもらえば良い。そうすることで学習する漢字とその漢字の系統的成り立ちが読み取れるようになる。

『漢字系統樹表 2800』による漢字という文字体系の系統的な理解が、漢字の習得に苦しむ学習者の一助になるなら、それに勝る喜びはない。

### 参考文献

- 1) 善如寺俊幸 (2016) 『漢字系統樹 2800』

- 2) 善如寺俊幸 (2018) 『漢字系統樹 2800 (新訂版 2018)』
- 3) 善如寺俊幸 (2010) 『漢字イメージトレーニング 500』 三恵社
- 4) 白川静 (1995) 『字訓』 平凡社
- 5) 白川静 (1996) 『字通』 平凡社
- 6) 白川静 (2001) 『白川静著作集 2 漢字 II』 平凡社
- 7) 白川静 (2000) 『白川静著作集 3 漢字 III』 平凡社
- 8) 白川静 (2001) 『白川静著作集 4 甲骨文と殷史』 平凡社
- 9) 白川静 (2001) 『白川静著作集 5 金文と経典』 平凡社
- 10) 白川静 (2003) 『漢字の世界 1』 平凡社
- 11) 白川静 (2003) 『漢字の世界 2』 平凡社
- 12) 白川静 (2004) 『新訂字統』 平凡社
- 13) 水上静夫 (1995) 『甲骨金文辞典』 雄山閣
- 14) 諸橋轍次他 (1982) 『広漢和辞典』 大修館書店

(ぜんによじ としゆき)